

第27回 関東甲信越静性教育研究大会・東京大会報告

東京都性教育研究会 会長 福迫 潮

「情報化社会における性教育の今日的課題」を基本テーマに、第27回関東甲信越静性教育研究大会東京大会が、平成29年11月25日（土）に東京都立晴海総合高等学校において開催されました。

午前の部は、開会行事の後、文部科学省の森良一健康教育調査官の基調講演、東京未来大学 出口保行教授による記念講演、午後の部は、5つの分科会に分かれて、実践発表・研究協議を実施しました。

【基調講演】

「性に関わる指導の今日的課題」という演題のもと、文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官 森 良一様より講演していただきました。

新学習指導要領を踏まえて、中央教育審議会の答申の中から、現代的諸課題に対応して求められる資質・能力について説明いただきました

その中でも、性に関わる指導を含む、健康・安全・食に関する資質・能力が一番初めに扱われていることの重要性を強調されました。

近年では様々な健康情報や性・薬物等に関する情報の入手が容易になり、子供たちが、情報を正しく選択して適切に行動できるようにするとともに、薬物乱用防止等を徹底することが課題となっている。

資質・能力とは、大きく「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」があり、そのバランスが大切であること、そうした資質や能力は、アクティブラーニングの視点からの課題解決的な学習プロセス、教科横断的なカリキュラム・マネジメントの実現が必要である。

また、8月に開催された全国性教育研究大会での講演について、後日質問された内容にもお答えいただきました。内容は、あいまいさや分かりにくさの



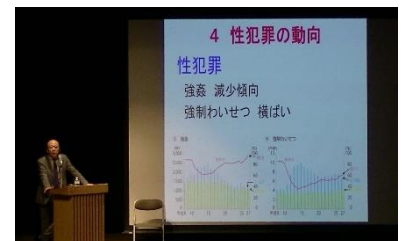
解消のため「保健指導」「保健学習」という言葉は、教育課程上は使用しない。ただし、保健管理に関わる「保健指導」は今まで通り、とのこと。

【記念講演】

「一万人を超える犯罪者の心理分析を通して見た現在の性犯罪の動向と対応」という演題のもと、東京未来大学の出口保行教授より、講演していただきました。出口教授は、国家公務員心理職として法務省入省。以後全国の刑務所・拘置所・少年鑑別所で犯罪者を心理学的に分析する資質鑑別に従事、その後、東京未来大学学部長となり、内閣府・法務省をはじめ、地方自治体の要請に基づく防犯講演を行っています。メディアでもコメンテーターとして活躍しています。

<講演内容>

- 教育の積み上げ、現場での個別の問題の対処が、非行の抑止になっている。
- 犯罪は環境や条件が揃わなければ、起きないので、攻める防犯が必要である。
- 座間の死体遺棄事件等は、百万人に一人いるかないかの事件なので、過剰に反応して、社会不安を起ささないことが大切。
- 犯罪に関する誤解・思い込みの多さ
 - ・日本の犯罪件数は、H14以降減少、少年非行もS58以降減少・年少者を狙った性犯罪は午後3時、路上が最も多い。
- 性犯罪の動向
 - ・強姦は減少傾向、強制わいせつは横ばいだが、検挙率が問題
- 性犯罪に共通する認識
 - ・レイプ神話いわゆる誤った認識がある。
 - ・通報のしにくさ、暗数の多さ、セカンドレイプ
- 性犯罪の5つのタイプ
 - ①単独強姦 ②集団強姦 ③わいせつ



④小児わいせつ ⑤小児強姦

○性犯罪者処遇

・去勢モデル、薬物治療、矯正モデル

※日本は矯正モデル

○攻める防犯を活用

攻める犯罪→被害防止、加害者防止

【分科会】

第1分科会（小学校における性教育の実践）

司会者 水越俊行（豊島区立さくら小学校 校長）

提案1 「性的な課題に対する養護教諭の連携と支援」横浜市立滝頭小学校 渡部真弓 養護教諭より、児童支援選任制度のもと、専任と養護教諭との連携の実践を発表した。

提案2 「命の大切さ～思春期における心と体の変化」元千葉県助産師会長 斎藤葉子 氏より、講演依頼を受けた小学校等での授業実践と講演後の保護者とのミニ懇談会の実践を発表した。

助言者の津吹哲男（東上総教育事務所教育相談室）より、セクシャリティーには4つの要素（生物学的性、性自認、社会的性役割、性的嗜好）があり、それぞれにマイノリティーが存在すること。2つの実践報告にあてはめながら、解説いただきました。

第2分科会（中学校における性教育の実践）

司会者 郡 吉範（三鷹市立第六中学校 校長）

提案1 「普通の中学生」清瀬市立清瀬第二中学校 原添 さやか 主任教諭より、性同一性障害の生徒を3年間担任した際の学校体制の実践を発表した。

提案2 「やるっきゃない！性教育」群馬県玉村町立南中学校 鳥羽ちとせ教諭より『生&性について say する授業』の実践を発表した。

助言者の藤本渡（全性連 監事）より

第3分科会（高等学校における性教育の実践）

司会者 山田智美（都立王子総合高等学校副校長）

提案1 「科目『保健』における生徒の実態に合わせた授業」都立稔ヶ丘高等学校 井谷 享 主任教諭より、タイプの違う2つの高校での、性教育の授業実践を発表した。

提案2 「男子高校生が自分の未来について考える」群馬県立富岡高等学校 山下博子 養護教諭より、思春期ピアカウンセラーによるピアエデュケーション

の実践を発表した。

助言者の伊東直晃 主任指導主事（東京都教育庁指導部）より、小・中学校の学習指導要領においての性に関する指導の内容を紹介。学校全体で取り組み、教科・領域の横断的な取り組みがむことが重要であること。生徒に考えさせる場面も必要であることを強調された。

第4分科会（特別支援教育における性教育の実践）

司会者 桐川勲（府中市立府中第二中学校長 校長）

提案1 「港区立港南中学校特別支援学級性教育」野澤恵美・菅谷史子（港区立港南中学校教諭・養護教諭）より、学校全体で性教育に取り組む中、特別支援学級における主体的・対話的で深い学びの実践を発表した。

提案2 「人とのきより」横浜市立丸山台小学校 小島恵子 教諭より、パーソナルスペースについての指導実践を発表した。

助言者の金子猛（都立小金井特別支援学校校長）より、授業のルールを最初に伝えること、始めに自分自身の課題だということを意識させ、複数の教員で考えていくが必要であるという助言があった。

第5分科会（性情報の指導の実践と講座）

司会者 井口一成（東京都性教育研究会 顧問）

提案 「性情報」文京区立第一中学校 細谷晋一 主幹教諭より、社会科の授業における「ネットと性情報」の指導実践を発表した。

講座 日本思春期学会 宮崎豊久 幹事より「情報モラル教育だけでは防げない思春期のインターネットトラブル」のテーマで講座をしていただいた。



学校現場では子供たちの様々なネットトラブルの対応に追われている。情報リテラシーや情報モラル教育（2次予防）に加えて、社会に蔓延するコミュニケーション不足、社会性が発達しにくいなどのリスクを軽減させる取組（1時予防）が必要である。